

平成27年度第1回山形県図書館協議会次第

日時：平成27年9月16日（水）13:30～15:30

場所：「遊学館」 3階 第2研修室

1 開 会

2 主催者あいさつ

教育庁文化財・生涯学習課生涯学習振興室長
県立図書館長

3 委員長選任

4 議 事

(1) 「県立図書館の将来のあり方について」に基づく施策の進捗状況等について

(2) 県立図書館活性化検討委員会の検討状況について

(3) その他

5 その他

6 閉 会

「県立図書館の将来のあり方について」の推進に関するサービス評価指標について

山形県図書館協議会報告書「県立図書館の将来のあり方について」（平成27年3月18日）で示された施策の推進を図るため、平成27年度から平成29年度までのサービス評価指標を定める。

1 人口千人当たり延来館者数

より多くの県民に利用される図書館づくりの推進

	年度	数値	摘 要
実績	H 2 4	176.39	[203,179人(H23+6,454)／人口1,151,863人] ×1,000
	H 2 5	171.95	[195,095人(H24-8,084)／人口1,141,260人] ×1,000
	H 2 6	170.50	[192,779人(H25-2,316)／人口1,130,659人] ×1,000
目標	H 2 7	174.29	[195,200人(H26+2,421)／人口1,120,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 8	178.02	[197,600人(H27+2,400)／人口1,110,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 9	181.81	[200,000人(H28+2,400)／人口1,100,000人(仮定)] ×1,000

2 人口千人当たり所蔵資料数

本県の中核図書館として必要な資料充実の推進

	年度	数値	摘 要
実績	H 2 4	687.64	[792,062点(H23+19,317)／人口1,151,863人] ×1,000
	H 2 5	710.88	[811,297点(H24+19,235)／人口1,141,260人] ×1,000
	H 2 6	730.47	[825,908点(H25+14,611)／人口1,130,659人] ×1,000
目標	H 2 7	752.68	[843,000点(H26+17,092)／人口1,120,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 8	783.78	[870,000点(H27+27,000)／人口1,110,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 9	815.45	[897,000点(H28+27,000)／人口1,100,000人(仮定)] ×1,000

3 人口千人当たり相互貸借及び一括特別貸出による延貸出実績

市町村図書館(室)支援体制強化の推進

	年度	数値	摘 要
実績	H 2 4	6.85	[7,890点(H23+ 848)／人口1,151,863人] ×1,000
	H 2 5	8.21	[9,368点(H24+1,478)／人口1,141,260人] ×1,000
	H 2 6	9.25	[10,455点(H25+1,087)／人口1,130,659人] ×1,000
目標	H 2 7	10.27	[11,500点(H26+1,045)／人口1,120,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 8	11.26	[12,500点(H27+1,000)／人口1,110,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 9	12.27	[13,500点(H28+1,000)／人口1,100,000人(仮定)] ×1,000

4 人口千人当たり受取館貸出による延利用実績

県民への広報並びに市町村図書館(室)との連携強化による県内全域での活用の推進

	年度	数値	摘 要
実績	H 2 4	4.10	[4,718点(H23+ 368)／人口1,151,863人] ×1,000
	H 2 5	4.27	[4,874点(H24+ 156)／人口1,141,260人] ×1,000
	H 2 6	5.33	[6,026点(H25+1,152)／人口1,130,659人] ×1,000
目標	H 2 7	5.71	[6,400点(H26+ 374)／人口1,120,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 8	6.04	[6,700点(H27+ 300)／人口1,110,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 9	6.36	[7,000点(H28+ 300)／人口1,100,000人(仮定)] ×1,000

5 人口千人当たりレファレンス件数

レファレンスサービスに対する県民の認知度拡大とサービス体制強化の推進

	年度	数値	摘 要
実績	H 2 4	6.12	[7,048件(H23+368)／人口1,151,863人] ×1,000
	H 2 5	6.05	[6,907件(H24-141)／人口1,141,260人] ×1,000
	H 2 6	5.66	[6,394件(H25-513)／人口1,130,659人] ×1,000
目標	H 2 7	6.04	[6,760件(H26+366)／人口1,120,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 8	6.42	[7,130件(H27+370)／人口1,110,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 9	6.82	[7,500件(H28+370)／人口1,100,000人(仮定)] ×1,000

6 人口千人当たりイベント(図書館活用・展示関連)延参加者数

図書館の活用促進につながる事業の実施及び情報発信の推進

	年度	数値	摘 要
実績	H 2 4	—	
	H 2 5	—	
	H 2 6	0.14	[154人／人口1,130,659人] ×1,000
目標	H 2 7	0.20	[220人(H26+66)／人口1,120,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 8	0.24	[270人(H27+50)／人口1,110,000人(仮定)] ×1,000
	H 2 9	0.29	[320人(H28+50)／人口1,100,000人(仮定)] ×1,000

<実績値資料>

山形県立図書館「山形県立図書館要覧」平成24～27年度版、その他館内統計

山形県企画振興部「平成26年山形県の人口と世帯数－山形県社会的人口移動調査結果報告書－」

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標1「県内図書館の中核的役割の発揮」

施策	主要項目	主要項目の概要	取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）
1 専門書や郷土資料の収集拡充、図書資料費の確保	市町村図書館(室)との役割分担をふまえた専門書・郷土資料の体系的な収集	専門書選定における連続性や関連性が高い文献の調査、既刊資料購入等による資料充実	H26年度 ー
		郷土資料の情報収集と網羅的な整備、書誌検索の項目の拡充	H27年度 購入すべき既刊図書についての情報収集能力の向上
2 市町村図書館(室)に対する支援の充実	本県全体の図書館サービス向上に関するリーダーシップの発揮	専門書・郷土資料購入予算	H26年度 ー
		資料購入費確保への配慮	H27年度 4～3月、書誌情報拡充の検討 <山形県図書館協会「公共図書館相互協力推進事業」> 10月～、特定主題文献目録の改訂検討(予定)(各図書館室で地元市町村に関係が深いテーマを設定して収集した資料の目録、前回改訂H16年度) (H27年度資料購入予算はH26年度予算と同額)
市町村図書館(室)に対する支援の充実	市町村図書館(室)職員に対する実務研修の積極的な実施、全国の先進的な取組みの情報提供	市町村図書館(室)と県内共通の取組みの企画、県民の関心を喚起する取組み	H26年度 8月・11月、日本図書館協会「図書館基礎講座in東北」を招致(遊学館で開催)し、県内市町村図書館(室)職員に研修の機会を提供した。 12～1月、図書館危機管理研修会を開催するため、県内市町村図書館(室)からリスク事例を収集した。
		市町村図書館(室)で活用される図書資料の充実、相互貸借・団体貸出の推進	H27年度 <山形県図書館協会「公共図書館相互協力推進事業」> 5月、図書館危機管理研修会の開催／講師：草津町立図書館係長 中沢孝之氏／参加者79名のうち市町村図書館(室)は22館室39名参加 5～6月、市町村図書館(室)巡回時に情報共有・相談体制の周知を図った。 相談の受け付け(よろず相談シート)及び専門家の紹介 11月、資料デジタル化研修会の開催／講師：秋田県立図書館副館長 山崎博樹氏(予定)
		図書館情報システムへの機能追加等による県立・市町村図書館(室)間の情報共有体制の整備	H28年度 <山形県図書館協会事業> 6月、第67回北日本図書館大会山形大会(基調講演、分科会等)の開催(山形県図書館協会・北日本図書館連盟共催) <文部科学省委託事業> 11月、図書館地区別(北日本)研修の開催(県教育庁から国への事業計画提出4月)
			H26年度 8月～3月、県内市町村図書館(室)が連携して各館室で貸出実績のない図書の展示「貸出ゼロ展示」を実施した。 当館を含む27館室が参加し、10月の当館展示はNHKテレビニュースの全国放送で取り上げられた。
		H27年度 <山形県図書館協会「公共図書館相互協力推進事業」> 5～6月、市町村図書館(室)巡回時に情報共有・相談体制の周知を図った。 各館(室)事業の情報収集(情報提供シート)、県立図書館内での各館(室)事業広報資料掲示、FaceBookによる発信 7～10月、連携企画「山形県図書館大賞」の実施 県内公共図書館(室)職員による投票・集計、大賞作品の発表・展示	
		H26年度 6～7月、市町村図書館(室)巡回時に相互貸借・団体貸出の周知を図った。	
		H27年度 5～6月、市町村図書館(室)巡回時に相互貸借・団体貸出の周知を図った。	
		H26年度 ー	
		H27年度 ー	
		H28年度 情報システム更新にあわせポータルサイト構築(予定)	

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標1「県内図書館の中核的役割の発揮」

施策	主要項目	主要項目の概要	取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）
3 学校図書館との連携の推進	学校図書館との連携に関する市町村図書館(室)との役割分担	小中学校図書館：市町村が主担、高等学校図書館：県立が主担	H26年度 10月、県図書館協会「公共図書館相互協力推進事業」ワーキンググループ会議 市町村図書館(室)が小中学校との連携窓口となっている実情に応じて役割分担を整理する検討を行った。
		高等学校図書館との情報交換、県立図書館の利用の積極的な促進による高校生の読書離れ防止	H27年度 <山形県図書館協会「公共図書館相互協力推進事業」> 5月、県図書館協会役員会・総会 県立図書館を学校図書館総合相談窓口とする体制から、県立図書館と市町村図書館(室)とで連携窓口を分担する体制へ変更が承認された。 8月、村山地区高校司書研修会を共催 1月、「学校支援のための公共図書館利用ハンドブック」(第2版)発行(予定)
	大学図書館との連携	図書館連絡協議会における連携強化、企画・イベントの共催の検討	H26年度 12～2月、近隣3高校を訪問し、H27年度新入生への利用者カード作成等のはたらきかけを依頼した。 H27年度 8月、村山地区高校司書研修会を共催し、高校と県立図書館との連携について協議した。 11月、村山地区高校図書委員・司書等合同研修会の受入れ実施(予定) 1～2月、山形市内等の高校にH28年度新入生への利用者カード作成等のはたらきかけを依頼(予定)
4 団体貸出の範囲の拡大	団体貸出(一括特別貸出)の対象拡大	市町村図書館(室)以外の公的機関・団体、民間団体等への拡大	H26年度 - H27年度 一括特別貸出(団体貸出)の取扱いの整理を検討(予定)
		申請者自身による選書作業のほか、申請者の意向に沿った県立図書館側による選書、展示使用図書の出借等柔軟な対応	H26年度 展示図書の一括特別貸出により申請者の選書作業を省力化する便宜を図った。 「トーベ・ヤンソン展示」選書図書及び展示揭示物⇒新庄市立図書館 「貸出ゼロ展示」選書図書⇒白鷹町立図書館、舟形町公民館 H27年度 5月～6月、市町村図書館(室)巡回において、県立図書館選書による一括特別貸出(団体貸出)が可能なことを説明し、利用を呼び掛けた。 また、相互貸借便を活用して、市町村図書館(室)職員が借受・返却のために直接来館しなくても利用できる仕組みをつくった。
5 調査相談(レファレンス)機能の充実	調査相談(レファレンス)と専門機関紹介のレベルアップ	担当職員の専門研修派遣	H26年度 研修の機会を捉えて対応 H27年度 研修の機会を捉えて対応
		専門機関との定期的な情報交換による連携強化	H28年度 11月、図書館地区別(北日本)研修(文部科学省委託事業)においてレファレンスに関する講義を実施(予定)
		調査相談(レファレンス)資料の充実	H26年度 - H27年度 各専門機関との情報交換・連携についての検討
		課題解決の手段としての活用を積極的に広報	H26年度 選書業務における調査相談(レファレンス)関係資料選定への配慮 H27年度 選書業務における調査相談(レファレンス)関係資料選定への配慮
			H26年度 <パスファインダー> 4～1月、パスファインダーの原案を6種類作成した。 2月、H23～H25年度に作成したパスファインダー(18種類)を新聞雑誌閲覧コーナー入口に配置した。 H27年度 <レファレンスの広報・周知等> 4～5月、こどもの読書週間企画展中、図書館の業務を説明するパネルを掲示し、レファレンスサービスを紹介した。 5月～継続中、常設展示「くらしの道しるべ」(テーマ「図書館」)において、図書館での調べ方やレファレンスに関する本を展示。 <パスファインダー> 4月、パスファインダー6種類を作成し、新聞雑誌閲覧コーナー入口に追加配置した。(計24種類) 5～3月、パスファインダーを6種類作成(予定)

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標1「県内図書館の中核的役割の発揮」

施策	主要項目	主要項目の概要	取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）
6 職員体制の改善	専門知識を有する司書の確保	長期の人事異動サイクルによる専門性を高めるための配慮	H26年度 （正職員19人中、4年以上在籍者6名） H27年度 （正職員19人中、4年以上在籍者3名）
		正職員の司書職採用など人材を確保するための配慮	H26年度 （正職員有資格者 年度当初司書補1名、年度途中から司書1名・司書補1名） H27年度 （正職員有資格者 司書2名）
7 職員（司書）研修の充実	幅広い知見を備えるための研修	最新の情勢・知見に接する機会の付与、館内研修・OJTの充実による業務のレベルアップ	H26年度 6～7月、村山地域等の市町村図書館(室)巡回カウンター司書を同行させ、他の図書館の取組みを視察させた。 7～9月、富士大学(花巻市)が開講する司書講習に職員1名を派遣し、司書資格を取得させた。 12～3月、1階総合案内カウンター・1階調査相談カウンターにおいて事務室職員によるカウンター業務の支援を試行した。 (1月まで週1回、2月から週2回)
			H27年度 6～3月、1階総合案内カウンター・1階調査相談カウンターにおいて事務室職員によるカウンター業務支援を実施。 (ボランティアの受入れを考慮し、週1回の体制で実施) 9月以降、村山地域等の市町村図書館(室)巡回カウンター司書を同行させ、他の図書館の取組みを視察(予定)

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標2「県民ニーズ実現のための積極的支援」

施策	主要項目	主要項目の概要	取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）
1 地域の課題解決支援・民間団体との連携の促進	日常生活や地域課題の解決等県民ニーズへの積極的な対応	県生涯学習文化財団その他民間団体との連携による県民の課題解決のための企画展示、イベント等の実施	<p>H26年度</p> <p>4～3月、遊学館催事さくらんぼTV主催「小説家（ライター）になろう講座」連携展示 6月、遊学館催事「山形学」フォーラム基調講演との連携／「山折哲雄展示」 9月、遊学館催事作家トークショーとの連携／「逢坂剛×諸田玲子展示」</p> <p>H27年度</p> <p>4月、山形市七日町花小路振興会「ドリンクテリング」との連携／「居酒屋と酒と肴を楽しむ」展示 4月、NHK山形放送局主催事業への協力／「親子で楽しく絵本を作ろう」～『泣いた赤おに』その後の物語～／遊学館会場設営・関連絵本展示 4～3月、遊学館催事さくらんぼTV主催講座との連携／「小説家（ライター）になろう講座」連携展示 4～6月、NHK木曜時代劇「かぶき者慶次」との連携／「前田慶次関連本展示」 5～6月、山形新聞連載「やまがた名詩散歩」との連携／「吉野弘と山形の詩人たち展示」 6月、山形新聞連載「やまがた名詩散歩」との連携／「山形の詩 朗読の夕べ」／山形県詩人会協力による詩の朗読（解説）会 9～10月、山形国際ドキュメンタリー映画祭2015との連携／「山形国際ドキュメンタリー映画祭2015関連展示」 9～10月、ドキュメンタリー映画「無音の叫び声 農民詩人木村迪夫の牧野物語」との連携／「詩人・木村迪夫著作展示」 10月、ドキュメンタリー映画「無音の叫び声」との連携／「木村迪夫の詩を語る集い」／山形県詩人会との共催によるシンポジウム 12月、一箱古本市@山形実行委員会との連携／「県立図書館クリスマス・フェスタ」（仮称）／古本市その他ブックイベント</p>
2 子育て支援機関・団体との連携による読育の推進	子育て支援機関等と連携した図書館サービスの実施	やまぎんこども館等子育て支援機関・団体への団体貸出促進等による連携 読み聞かせ会・体験講座の情報共有、イベントの共催等による読育の推進	<p>H26年度</p> <p>－</p> <p>H27年度</p> <p>一括特別貸出（団体貸出）の取扱いの整理をふまえて活用をPR（予定）</p> <p>H26年度</p> <p>（施策3再掲） 6月、子育て応援団実行委員会（県子育て支援課）連携／「子育て応援団 すこやか2014」出張展示／山形国際交流プラザ 7月・8月、県教育庁文化財・生涯学習課連携／「読育推進連携講座」出張展示／県立博物館 10月、県教育庁文化財・生涯学習課連携／「体験の風をおこそう！親子体験教室」出張展示／イオンモール山形南 1月、県教育庁連携／「平成26年度山形県いのちの教育『読育』フェスティバル」出張展示／山形国際交流プラザ 2月、山形県紅花生産組合連合会（事務局：県園芸農業推進課）連携／「『ママの日』プロジェクト」出張展示／悠創館</p> <p>H27年度</p> <p>（施策3再掲） 6月、子育て応援団実行委員会（県子育て支援課）連携／「子育て応援団 すこやか2015」出張展示／山形国際交流プラザ 7月、県教育庁文化財・生涯学習課連携／「読育推進連携講座」出張展示／県立博物館</p>
3 行政課題解決の支援・行政機関との連携の促進	関係部局・関係機関との連携	図書館活用の有効性の積極的PR 館内での連携展示、行政機関主催事業会場における関連図書展示等による支援	<p>H26年度</p> <p>1月、県の庁内報「ななマグ」第16号の5面に当館職員による図書館業務の紹介記事が掲載され、図書館活用のPRにつながった。</p> <p>H27年度</p> <p>4月、県庁舎各所属へメールで図書館活用方法を案内した。 7月、県の庁内報「ななマグ」第19号に館長インタビュー・バックヤードツアーの記事が掲載され、図書館活用のPRにつながった。</p> <p>H26年度</p> <p><館内展示> 4月、県子ども家庭課連携／「少子化危機突破タスクフォース連携展示」 6月、県砂防・災害対策課連携／「土砂災害防止月間連携展示」 10月、県事業連携／「全国育樹祭展示」 県砂防・災害対策課連携／「自然災害を知る展示」 2～3月、県村山保健所連携／「自殺対策強化月間連携展示」 3月、自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク連携／「ふるさと文学交流展」 <出張展示> 6月、子育て応援団実行委員会（県子育て支援課）連携／「子育て応援団 すこやか2014」出張展示／山形国際交流プラザ 7月・8月、県教育庁文化財・生涯学習課連携／「読育推進連携講座」出張展示／県立博物館 10月、県教育庁文化財・生涯学習課連携／「体験の風をおこそう！親子体験教室」出張展示／イオンモール山形南 1月、県教育庁連携／「平成26年度山形県いのちの教育『読育』フェスティバル」出張展示／山形国際交流プラザ 2月、山形県紅花生産組合連合会（事務局：県園芸農業推進課）連携／「『ママの日』プロジェクト」出張展示／悠創館</p> <p>H27年度</p> <p><館内展示> 5～6月、県砂防・災害対策課連携／「土砂災害防止月間連携展示」 9月、県教育庁スポーツ保健課連携／「食育展示」 10月、県砂防・災害対策課連携／「自然災害を知る展示」 11月、県教育庁総務課連携（やまがた教育の日推進事業）／「やまがた教育の日・やまがた教育月間展示」（仮称） <出張展示> 6月、子育て応援団実行委員会（県子育て支援課）連携／「子育て応援団 すこやか2015」出張展示／山形国際交流プラザ 7月、県教育庁文化財・生涯学習課連携／「読育推進連携講座」出張展示／県立博物館</p>

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標2「県民ニーズ実現のための積極的支援」

施策	主要項目	主要項目の概要	取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）
4 電子媒体の積極的活用の推進	県内中核図書館としての電子化の取組み	貴重な郷土資料のデジタル化、閲覧の利便性向上	H26年度 ー
		電子書籍の導入の検討	H27年度 4～3月、非常勤嘱託職員配置によりデジタル化に向けた資料整理実施（和装本の集約、書誌データの確認等） 7月～、専門家による現物調査
5 積極的な情報発信による認知度の向上	県民に対する県内中核図書館の役割のアピール	館内報、HP、フェイスブック等による定期的な情報発信・提供	H26年度 ー
		プレスリリースや各種広報誌等への積極的な情報提供	H27年度 情報収集
			H26年度 年度後半にかけてフェイスブックに随時イベント情報を掲載して情報発信を強化した。
			H27年度 4～3月、展示、研修会、市町村図書館(室)巡回、イベント等図書館の事業のつどフェイスブックによる情報発信を実施 8月、図書館だより「本の森通信」発行（ホームページ掲載、市町村図書館(室)・高等学校図書館等へ配信、年3回発行予定）
			<館内展示> 10月、「貸出ゼロ展示」 ⇒ 10/10NHK山形放送局ラジオ生中継「山形ひるどきラジオ なにしたのや～?」、10/16NHK山形放送局テレビ生中継 ⇒ 10/27読売新聞大阪版に関連記事掲載、10/28山形新聞社説に県立図書館及び当該展示が取り上げられた。 ⇒ 10/31NHK総合テレビ「おはようニッポン」で全国放映、11/10・11/14時事通信社・JAMPに関連記事掲載 H26年度 3月、「ふるさと文学交流展」 ⇒ 3/23知事定例記者会見の中で開催の言及があった。（県教育庁文化財・生涯学習課プレスリリース） ⇒ 4/1山形経済新聞(ネットニュース配信サービス)に関連記事掲載 (http://yamagata.keizai.biz/phone/headline.php?id=83) <その他> 2月、1階新聞雑誌閲覧コーナーへの飲料持ち込み解禁、1階視聴覚エリアへの大活字本・朗読CDコーナー設置 ⇒ 山形新聞による取材に協力、3/9に関連記事が掲載された。 3月、第2回図書館協議会プレスリリース ⇒ 3/24山形新聞社説に「県立図書館の将来のあり方について」が取り上げられた。
			<館内展示> 4月、こどもの読書週間企画展「図書館のちから」プレスリリース ⇒ 4/22山形新聞に関連記事掲載、4/23YBCテレビ街角伝言板にてお知らせ放映 5月、「吉野弘と山形の詩人たち」プレスリリース ⇒ 6/13山形新聞に関連記事掲載 6月、「虫・ムシ・むしの本」プレスリリース ⇒ 6/22NHKローカルニュース「あすの動き」で紹介、6/26山形新聞に関連記事掲載 7月、「戦後70年展」プレスリリース ⇒ 7/22TUYテレビのローカルニュースで放映、7/30山形新聞に関連記事掲載、7/31・8/13YBCテレビのローカルニュースで放映 ⇒ 8/12YTSテレビのローカルニュースで放映 7月、「なつやすみ特集」プレスリリース ⇒ 8/4山形新聞に関連記事掲載 <イベント> 5月、「山形の詩・朗読のタベ」プレスリリース ⇒ 6/13山形新聞に関連記事掲載 <社会貢献活動の受入れ> 5月、ボランティア募集プレスリリース ⇒ 6/11山形新聞に関連記事掲載

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標2「県民ニーズ実現のための積極的支援」

施策	主要項目	主要項目の概要	取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）
6 ボランティアの導入等図書館運営への県民参加の推進	中高生・大学生以外の一般県民を対象としたボランティア活動の受入れ	段階的なボランティア受入れ分野の拡大	H26年度 ー H27年度 6月、ボランティア募集開始 山形市市民活動支援センター、山形市及び隣接市町の公立公民館・勤労青少年ホーム（教育委員会経由）等へ募集要項配置依頼 県の全所属あてメールで案内 7月、説明会（面接）実施、ボランティア17名登録、オリエンテーション実施、ボランティア活動受入開始
		民間団体等と連携したボランティア育成	H26年度 ー H27年度 民間団体等との情報交換（予定） 図書館ボランティアとの意見交換会（11月予定）
		雑誌スポンサー制度による企業の社会貢献等の促進	H26年度 4月、雑誌スポンサーの受入開始（年度末、5社6誌） 榊大風印刷5月「週刊文春」、榊山形銀行6月「プレジデント」、榊荘内銀行8月「週刊新潮」・「モンテディオ山形ファンマガジンRush」 山形県住宅供給公社11月「サライ」、独立行政法人都市再生機構12月「きょうの健康」（申請は榊山形アドビューロ経由） H27年度 4～3月、雑誌スポンサーの受入（8月現在、5社6誌） 榊大風印刷「週刊文春」、榊山形銀行「プレジデント」、榊荘内銀行「週刊新潮」・「モンテディオ山形ファンマガジンRush」 山形県住宅供給公社「サライ」、プライズイマージュ「ゼクシィ」（8月から）

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標3「県民本位の利用しやすい図書館づくり」

施策	主要項目	主要項目の概要
1 開館日の増加等利用機会の拡大	利用見込みや利用実態に応じた開館日・時間の設定	祝日月曜日開館の早期実現に向け関係機関と調整
		他県の状況もふまえ冬の土・日、祝日の利用実態に応じた閉館時刻設定を検討 蔵書点検の効率化による特別整理期間の休館期間短縮の検討
2 手荷物・飲料持込みの解禁	手荷物をコインロッカーに預ける不便の解消、利用者の不快感軽減	無断持出検知システム導入による手荷物持ち込み解禁の検討
	飲料持込み解禁による堅苦しさの緩和	ブラウジング（新聞雑誌閲覧）コーナーへの飲料持込み解禁の検討
3 蔵書管理の充実による利便性の向上	適切な蔵書の保存	定期的な閉架書庫の蔵書点検と燻蒸実施、点検作業の効率化の検討
	開架スペースに閉架書庫が隣接する状況の解消、閉架書庫立ち入り要望への対応	書庫を含む館内レイアウト見直し・遊休スペース活用の検討 定期的な閉架書庫見学ツアーの実施
	マイクロフィルム利用環境の充実	劣化防止対策の検討、老朽化した閲覧機器の更新
4 インターネット・複写サービスの利便性向上	インターネット利用環境充実	Wi-Fi導入の検討
	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用環境整備	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供
	複写サービスの充実	カラー複写機設置の検討
5 高齢者や乳幼児同伴者への配慮	高齢者等が利用しやすい資料の整備	大活字本・朗読CDの特設コーナー新設、拡大読書器の配置
	乳幼児同伴者等への配慮	防音に配慮した子供読書室等専用スペース確保の検討（中長期的課題）

取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）	
	（関係部局と調整中）
	（検討中）
H26年度	－
H27年度	2月、特別整理期間の短縮（予定）
H26年度	－
H27年度	2月、ICタグによる無断持出検知システム稼働により手荷物持込み全面解禁（予定）
H26年度	2月、1階新聞雑誌閲覧コーナーへの蓋付き飲料持込みを解禁した。
H27年度	－
H26年度	2月、特別整理期間中に閉架書庫9門（文学・小説等）の書架整理を実施した。
H27年度	郷土資料と行政資料の分離所蔵の検討
	（図書館活性化対策とあわせて検討）
H26年度	－
H27年度	10～3月、定期開催に向けた閉架書庫見学ツアーの試行（予定）
H26年度	－
H27年度	閲覧機器更新の検討
H26年度	－
H27年度	導入手法の検討
H26年度	－
H27年度	9月、デジタル化資料の閲覧・複写サービス開始
H26年度	－
H27年度	県図書館協会複写機の取扱いの検討
H26年度	2月、1階視聴覚エリアに特設コーナー「楽らく文庫」を設置するとともに、視聴覚席に拡大読書器専用席を1席設置した。
H27年度	－
	（図書館活性化対策とあわせて検討）

「県立図書館の将来のあり方について」施策の主要項目及び取組実施状況

平成27年9月16日現在

基本目標3「県民本位の利用しやすい図書館づくり」

施策	主要項目	主要項目の概要
6 おもてなしの雰囲気づくりの推進	図書館の演出	高等教育機関等の協力による統一的なデザイン採用の検討
	親しみやすい雰囲気醸成	作家等サイン色紙や市町村キャラクターの展示、BGM放送の検討
7 にぎわい創出につながる仕掛けの展開	持続的な企画、参加型イベント等利用者のすそ野の拡大	学校や民間団体等と連携した館内での小規模イベントの定期的開催
		館内レイアウトの見直しも含む施策の検討（長期的課題）
8 図書館情報システムの改善	図書館横断検索システムの統合	図書館情報システムとの統合による不具合の改善
	貸出履歴の提供	貸出中図書一覧の出力機能や利用者本人限定の貸出履歴照会機能の導入
9 駐車場利用の改善	車で来館する利用者への配慮	近隣における駐車場の確保や県営駐車場の無料時間拡大の検討

取組実施状況（平成26年度まで実績／平成27年度以降実施・予定）	
（図書館活性化対策とあわせて検討）	
H26年度	11～3月、遊学館催事さくらんぼTV主催「小説家（ライター）になろう講座」講師サイン本展示 角田光代（講座11月）、高橋克彦（講座12月）、三浦しをん（講座1月）、藤田宜永（講座2月）、畠中 恵（講座3月）
H27年度	4～3月、遊学館催事さくらんぼTV主催「小説家（ライター）になろう講座」講師サイン本展示継続 野村 進（講座4月）、島本理生（講座5月）、森村誠一（講座6月）、小池真理子（講座7月）、穂村 弘（講座8月） 松村理英子（講座9月）、堂場瞬一（講座10月）、角田光代&井上荒野（講座11月）、辻原 登（講座12月） 三浦しをん（講座1月）、千早 茜・ゲスト村山由佳（講座2月）、桜木紫乃&花房観音（講座3月） 10～3月、BGMの検討（予定）
H26年度	4月、「紙ヒコーキ教室」 児童と保護者対象（参加者計26名）／こどもの読書週間企画展・山形空港開港50周年記念関連イベント 外部講師による体験教室とあわせて図書館の活用を案内した。 8月、「紅花染め体験&図書館ツアー」 児童と保護者対象（参加者計26名）／外部講師（県工業技術センター職員）による体験教室とあわせて図書館の活用を案内した。
H27年度	5月・6月、「図書館のぼうけん」 児童と保護者対象（参加者計20名）／開館時間において図書館フロアを会場に体験型ゲームによる図書館探検を開催した。 6月、「山形の詩 朗読のタベ」（基本目標2の施策1再掲） 一般対象（参加者38名）／山形新聞連載「やまがた名詩散歩」との連携企画（協力：山形県詩人会） 閉館後図書館フロアを会場に山形県詩人会会員7名による詩の朗読（解説）会を開催した。 10月、「木村迪夫の詩を語る集い」（基本目標2の施策1再掲） 一般対象（参加者 名）／ドキュメンタリー映画「無音の叫び声 農民詩人木村迪夫の牧野物語」との連携企画（協力：山形県詩人会） 遊学館研修室を会場にシンポジウムを開催（予定） 12月、「県立図書館クリスマス・フェスタ」（仮称）（基本目標2の施策1再掲） 一般・児童対象（参加者 名）／図書館・遊学館ギャラリーを会場に古本市その他ブックイベントを開催（予定）
（図書館活性化対策とあわせて検討）	
H26年度	—
H27年度	—
H28年度	2～3月、図書館情報システムとの統合（予定）
H26年度	—
H27年度	—
H28年度	2～3月、情報システムの更新にあわせ所要の機能を整備（予定）
（図書館活性化対策とあわせて検討）	

山形県立図書館活性化検討委員会委員名簿

氏 名	役 職
逸 見 良 昭	株式会社尚美堂 常務
山 崎 亮	株式会社 studio-L 代表取締役 東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科長
尾 形 恵 子	有限会社ティップス 取締役社長
新 藤 透	山形県立米沢女子短期大学 准教授
大 沼 洋 美	studio こぐま 代表 県青年会議 委員

山形県立図書館活性化検討委員会スケジュール

開催月日	委員会等	内 容
4 / 2 1 (火)	第 1 回検討委員会	<ul style="list-style-type: none">・現状と経過説明・検討内容の依頼・活性化に向けた意見交換①・今後のスケジュール
5 / 1 9 (火)	現地視察① (遊学館)	<ul style="list-style-type: none">・県立図書館の現地視察・活性化に向けた意見交換②
7 / 1 4 (火)	現地視察② ・武蔵野プレイス ・山梨県立図書館	<ul style="list-style-type: none">・先進事例視察・視察を受けての意見交換
7 / 3 0 (木)	第 2 回検討委員会	<ul style="list-style-type: none">・基本計画[構想部分](案)検討
1 0 / 2 (金)	第 3 回検討委員会	<ul style="list-style-type: none">・基本計画[構想部分]・基本計画[具体部分](案)検討
1 1 / 9 (月)	第 4 回検討委員会	<ul style="list-style-type: none">・基本計画(案)の検討
2 / 5 (金)	第 5 回検討委員会	<ul style="list-style-type: none">・基本計画のまとめ

第2回山形県立図書館活性化検討委員会資料
【基本構想（案）】

2015/07/30

目 次

第 1 章	山形県立図書館活性化の基本構想.....	1
1-1	はじめに.....	1
(1)	山形県立図書館活性化検討委員会設置の経緯.....	1
(2)	山形県立図書館の将来のあり方.....	2
1-2	山形県立図書館活性化の基本構想.....	3
第 2 章	調査結果より.....	5
2-1	来館者調査・インターネット調査結果概要.....	5
2-2	グループインタビュー調査結果（途中経過）概要.....	6
2-3	積載荷重調査結果.....	7

第1章 山形県立図書館活性化の基本構想

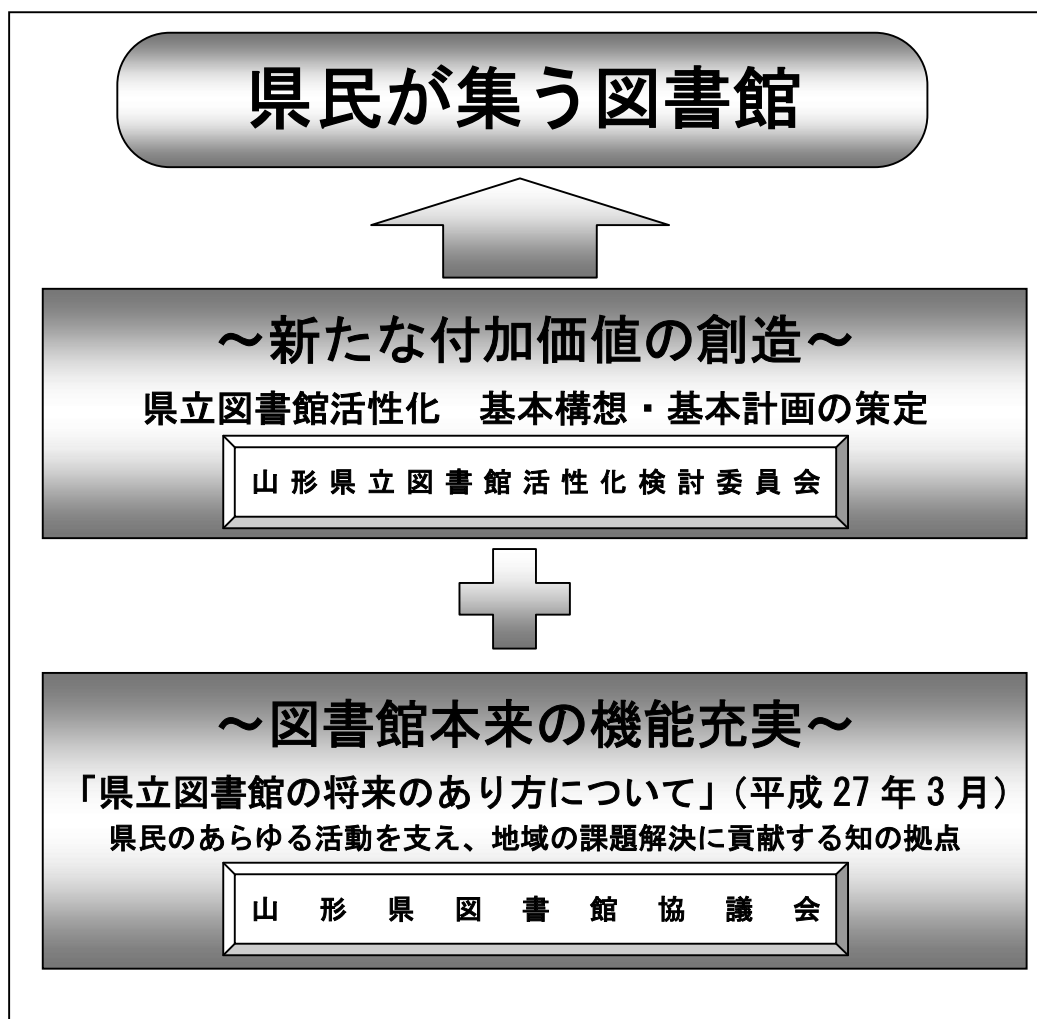
1-1 はじめに

(1) 山形県立図書館活性化検討委員会設置の経緯

近年の図書館を巡る環境の変化や県立図書館に対する県民の期待を踏まえ、山形県図書館協議会は、平成27年3月に「県立図書館の将来のあり方について」として、当面の改善策等を取りまとめ、実施可能なところから図書館本来の機能の充実を図っていくこととした。また、「さらなる活性化に向けて」として、図書館のみならず、併設する施設を含めた検討や、周辺の文化施設やNPO・ボランティア等との連携も視野に入れた「にぎわい」創出の仕組みづくりなどの議論が必要としている。

これを踏まえ、山形県立図書館のさらなる活性化を図るために、新たな付加価値の創造を目的とする方策の検討組織として「山形県立図書館活性化検討委員会」を設置した。検討委員会では、これまでの図書館の枠にとらわれない視点から検討を行い、「県民のあらゆる知的活動を支え、地域の課題解決に貢献する知の拠点」という図書館の基本理念のもと、その担うべき役割や機能を維持しつつ、県民本位の利用しやすい図書館づくりを目指し、「県民が集う図書館」を実現するため基本構想及び基本計画を策定する。

図1-1 山形県立図書館活性化検討委員会の位置づけ

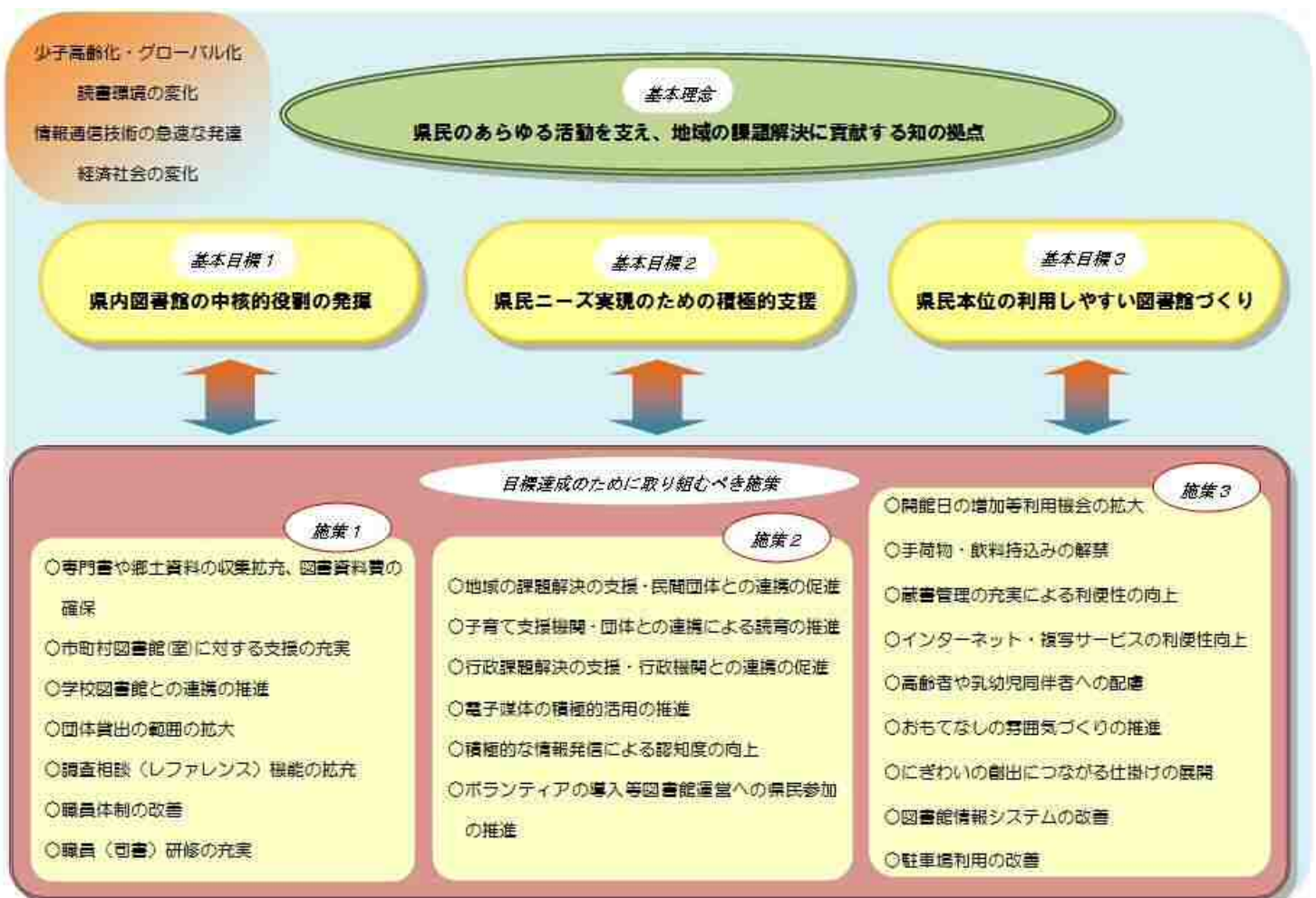


(2) 山形県立図書館の将来のあり方

山形県図書館協議会がとりまとめた「県立図書館の将来のあり方について」では、基本理念として「県民のあらゆる活動を支え、地域の課題解決に貢献する知の拠点」を掲げ、県立図書館は、県内市町村図書館（室）及び関係団体と連携し、多様な読書機会の提供と積極的な情報提供・発信を通じて県民のあらゆる活動を支え、地域の課題解決に貢献し、県全体の発展に寄与する知の拠点を目指していくものとしている。

またこの基本理念のもとに「基本目標 1：県内図書館の中核的役割の発揮」「基本目標 2：県民ニーズ実現のための積極的支援」「基本目標 3：県民本位の利用しやすい図書館づくり」を設定し、図 1-2 に示す施策を展開するものとしている。

図1-2 「県立図書館の将来のあり方について」の施策体系



1-2 山形県立図書館活性化の基本構想

県立図書館が目指すべき「県民が集う図書館」の実現に向け、以下を活性化の基本構想に掲げてサービス展開と空間整備を進めるものとする。

i) 本との新たな出会いを生み出す「ときめく図書館」

市町村図書館が対象としない高度な専門書や郷土資料等を含めて、住民ニーズに対応する多様な資料の充実を図るとともに、開架書架を拡大して、本に囲まれ、本との新たな出会いを実現する「ときめく図書館」の形成を図る。

a) 多様な県民ニーズに対応する資料の充実

「趣味や娯楽」「生活」「知的好奇心を満たす本」「仕事や職業」「児童書」等県民が求める多様な分野の本の充実を図るとともに、県立図書館の大きな役割である「市町村図書館が収集対象としない高度な専門書」や「山形県全体の郷土の歴史や文化に関する資料」等の充実を図る。

b) 開架書架の拡大による開架率の向上

現在の山形県立図書館は面積が狭く、蔵書数も少ないことを考慮するとともに、今后来館者のリピート率の向上を図ることを目標として、来館者が本に囲まれた空間で目的の本を探し、新たな本と出会い、読書をしたり学習する楽しみを実感できる図書館を目指し、遊学館全体への図書館機能の拡大を進め、開架書架の設置により開架冊数の増大を図る。

ii) 課題解決のきっかけとなる「頼れる図書館」

県立図書館の重要な機能であるレファレンスサービスの認知度を高めるとともに、図書館職員、特にサービスの中心となる司書の、県民・企業・団体等全ての主体の課題解決のためのレファレンス能力を強化して「頼れる図書館」の実現を図る。

a) 職員、特に司書のレファレンス能力の向上と安定的な配置

一般県民や企業・団体はもとより県内市町村立図書館からの、高度な相談を含めた様々な相談に対応できるよう研修体制の充実をはかり、職員特に司書のレファレンス能力の向上を図るとともに、地域の歴史や文化に精通した専門的なスキルを有する司書の配置に配慮する。そのためには、高度な能力を有する職員の安定的な配置が必要なことから、司書の雇用の仕組みを検討する。

b) レファレンスサービスの強化と認知度向上

県民のレファレンスサービスの認知度・利用度の低さを解消するため、HPでの過去のレファレンス事例の公表やメールによるレファレンスサービスの提供、サービス利用講習会の開催等、サービスの強化とPRを充実する。

c) 学校図書館へのサポート機能

学校図書館業務に携わる司書等に対して、学校図書館運営の実務的な内容についてサポートを行っていくとともに、読書活動の推進を支援していく。

iii) 先端的で多様なサービスを提供する「先導する図書館」

今年度導入する I C タグシステムに加え、デジタル書籍やデジタルサイネージの活用、有料データベースの充実等、先端的な I C T 技術の導入や強化により最先端のサービスを行うとともに、県内市町村図書館等県内の全ての図書館を牽引するサービスを展開し、県内図書館を「先導する図書館」の形成を図る。

a) 地域資料・歴史資料のデジタル化・公開やデジタル書籍提供システムの導入

全国の都道府県立図書館で導入事例がみられる地域資料・歴史資料のデジタル化を進め、HP 等で公開する。また館内閲覧や自宅閲覧、遠隔地や障がい者等への読み聞かせサービスが可能なデジタル書籍閲覧（w e b 図書館）システムの導入を検討する。

b) イベントや講座等多様な催し物の拡充と講座のネット受講システムの導入

県立図書館への来館経験がない県民のイベント等への要望は比較的強く、来館の契機となる可能性が高いことから、生涯学習センターや男女共同参画センター、他の行政機関、団体、地域等と連携したイベントや講座等多様な催し物を拡充する。また遠隔地の県民に対しては、講座等のネットによる受講システムの導入を検討する。

iv) 県民の生涯学習を支援する「生涯学習の拠点となる図書館」

「県民が集う図書館」のため、合理的なサービスが提供でき、来館者が使いやすい魅力ある空間の形成を図るため、遊学館全体への図書館機能の拡大のためのリニューアルを実施し、「生涯学習の拠点となる図書館」の形成を図る。

a) 遊学館全体への図書館機能の拡大

施設の構造条件に配慮しつつ、書架の拡大設置を進め、遊学館全体への図書館機能の拡大を図る。

b) にぎわいと静寂空間、ゆとり空間等の魅力ある整備

午前中は子育て世代、午後からビジネス層、夕方からは学生など時間帯による利用者サービスを考慮したサービスを提供するとともに、多様化する来館者のニーズに対応する、にぎわいと静寂、ゆとり等の調和と、カフェ機能との融合等に配慮した魅力ある空間整備や設備の充実を進める。

c) 複合施設の合理的利用に資するリニューアルの実施

「県民が集う図書館」の実現と、複合施設全体の稼働率向上に向けて、遊学館全体のゾーニングや施設配置の見直しを行いリニューアルを実施する。

第2章 調査結果より

2-1 来館者調査・インターネット調査結果概要

山形県立図書館が平成 26 年度に実施した「来館者調査」「県民意向調査（県庁・総合庁舎・県内市立図書館等で実施）」及び、本業務で実施した「インターネット調査（調査会社の山形県在住モニターへの調査結果）」の概要は以下のとおりである。

主要設問と回答結果	
利用の有無	・「来館利用有」は約 45%、「HP利用有」は約 20～30%
来館頻度	・「週 1 回以上」4.4%、「月 2・3 回～年数回」40.8%、「利用したことはあるが今は利用していない」33.6%（インターネット調査結果）
利用目的	・「趣味・娯楽の本」「日常生活に関する本」「知的好奇心・探究心を満たす本」「仕事に関する本」「学校の授業やレポートに関する本」「新聞雑誌」の順 ・「本に囲まれた空間でゆっくり」は約 10%（インターネット調査結果）
非来館理由	・「遠い」「どこにあるか知らない」「地元の図書館を利用」が主な理由 ・「図書館を利用する必要がない」は約 20%
改善すべきところ・今後力を入れて欲しい分野	<p>【利用環境・駐車場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「駐車場が遠いことを指摘し、無料利用時間拡大を要望」が最も多い。来館者は「入館の煩わしさ（コインロッカー等）」も指摘。 ・「カフェの飲み物を飲みながら閲覧できる席をつくる」要望は約 3 割で各年齢層共通で要望。 ・「静かに勉強できる学習室」要望は約 1 割だが、10～30 歳代で要望が強い。 ・「子どもが過ごしやすい部屋」は女性と 30 歳代の要望が強い。 <p>【蔵書・資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には「娯楽や趣味、専門的な本等」「幅広い分野の資料収集・提供」を要望。 ・「郷土の歴史・文化に関する資料」アンケートにより意見が分かれているが、来館者調査では約 20%が改善要望。 <p>【講座やイベント等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行きたくなるイベントや講座」要望は 2 割。非来館者の要望が強い。年齢が上がるにつれ要望が高まる傾向があり、ピークは 50 歳代が最大で約 3 割。
県立図書館のイメージ（インターネット調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・「県民にとって大切な施設」「本や蔵書が充実している」「県の歴史や文化資料を収集・保存している」「静かな環境で勉強や調べ物ができる」と認識されている。 ・「市町村の図書館を利用するので必要はない」は約 2 割。

2-2 グループインタビュー調査結果（途中経過）概要

i) 調査対象

a) 山形東高校生（済み）

- ・対象 1年生、2年生 各男女2名ずつ 計8名
山形市内在住4名 上山市3名 村山市1名

b) 山形大学生（地域教育文化学部）・大学院生（教育実践研究科）（済み）

- ・対象 学部学生6名 全員4年生 男2名 女4名
大学院生4名 全員2年生 男2名 女2名

c) 山形市内経済界等（アンケート途中）

- ・対象 所属団体 山形商工会議所 山形経済同友会 七日町商店街振興組合
山形法人会 その他（印刷会社、銀行、放送会社など） 計16名

d) 子育て母親グループ（未着手） 4グループを検討中

ii) 途中経過報告（概略）

a) 山形東高校 結果概要

利用頻度はさほど高くないが、ほとんどの生徒が利用したことがあると答えている。利用目的としては、本を読む、借りるといった利用ではなく、勉強をする場所としての利用が多く、特に夏休み期間などでの夏期講習等からの帰りなどに勉強のために利用するという答えがあった。

県立図書館への希望する改善点としては、①更なる勉強空間としての快適性向上（ひとり用個室、グループ用の部屋の設置）、飲み物が飲める空間の拡張 ②ロッカーおよび館内への荷物持ち込み制限についてが多かった。

b) 山形大学学部学生・大学院生 結果概要

県立図書館の利用は大学図書館が開館していない時間や大学図書館にはないが、県立図書館には所蔵している資料を利用する時ということが意見として多かった。

山形東高校へのヒアリングと同様に、県立図書館内での飲み物を可能にしたり、持ち込んだものを飲食できるスペースが欲しいとの要望が、カフェへの要望とともにあった。また、ロッカーの利用についても、改善して欲しいという意見が多くあった。

c) 経済界 結果 サンプルで

- * 講演会や催事でホールを良く利用している。
- * <遊学館の中>では存在感が薄い。
- * 大変いい環境にある。静か。
- * 蔵書も多く、何か調べたい時に行けば、「何とかなる」「関連の書物が必ずある」と思える。
- * 山形市立図書館との（蔵書するものも含め）役割分担等々を視野に、あるべき姿を検討すべき。それを踏まえて、県立図書館として、できるサービスを検討すべき。

2-3 積載荷重調査結果

遊学館（図書館、生涯学習センター、男女共同参画センター）全体の1階・2階の床荷重について、スラブ・小梁用、フレーム用、地震用の原設計の構造設計図及び構造計算書を基に床積載荷重条件を確認、整理した。結果概要は以下のとおりである。

【図書館部分1階・2階】

- ・一般に図書館の積載荷重の目安は開架書架スペースが500～800kg/m²、集密書庫は1,200kg/m²で設計される。現設計の図書館部分の1階・2階の開架書架スペースのスラブ及び小梁用の「書架等積載重量許容数値LL（ライブロード）」は6,000N/m²（約600kg/m²）で設定されており、集密書架への転換等は難しい。

【生涯学習センター・男女共同参画センター部分】

- ・「1階の大部分のエリアと、2階の吹抜けエリア廻りや生涯学習センター研修室を除くエリア」においては、LL6,000N/m²（約600kg/m²）で設計されており、現在の図書館の開架スペース程度の書架設置は可能である。
- ・「2階吹抜けエリア廻り」は、LL3,600N/m²（約360kg/m²）で設計されており、現図書館開架スペースの6割程度の書架設置は可能である。
- ・「2階生涯学習センター研修室」は、LL5,000N/m²（約500kg/m²）で設計されており、現図書館開架スペースの8割程度の書架設置は可能である。

したがって開架書架スペースとしてエリアを拡大する可能性が考えられる。概略の試算であるが、「開架書架タイプで書架間隔1.8m、7段複式書架の場合：190冊/m²の収容可能（書架メーカー資料より）」となっており、仮に上記「LL：6,000N/m²（約600kg/m²）」の大部分をこの書架開架スペースに割り当てるとすると、約45万冊の収容が可能である。

【概略試算（一つの目安として算出）】

$$\text{開架スペース収容拡大可能冊数} = 190 \text{ 冊/m}^2 \times \text{約 } 2,400 \text{ m}^2 = 456,000 \text{ 冊}$$

上記収容拡大可能冊数は、全体のゾーニングや閲覧席の形状・配置、必要通路幅の確保等により大きく変動する可能性があり、実際にはレイアウト検討により収容可能冊数が決定されることに留意が必要であるが、遊学館の主要部分では補強等の構造的な制約は受けずに開架書架エリアの拡大、ゾーニングの変更が可能と考えられる。但し、今後ゾーニングの変更・書架拡大にあたっては、構造上のチェックは必要である。